

概 況

- 1 製造業：一部に厳しい状況がみられるものの、
持ち直しの動きが続いている
- 一般機械器具：一部に厳しい状況がみられるものの、
持ち直しの動きが続いている
- 輸送用機械器具：持ち直しの動きが続いている
- 電気機械器具：持ち直しの動きが続いている
- 金属製品：持ち直しの動きが続いている
- プラスチック製品：一部に厳しい状況がみられるものの、
持ち直しの動きが続いている
- 銑鉄鋳物（川口）：厳しいながらも持ち直しの動きが続いている
- 印刷業：厳しい状況が続いている
- 2 小売業：一部に持ち直しの動きがみられるものの、弱い動きが続いている
- 百貨店：持ち直しの動きに陰りが見られる
- スーパー：弱い動きが続いている
- 商店街：厳しい状況が続いている
- 3 情報サービス業：悪化が続いている
- 4 建設業：悪化が続き、厳しい状況となっている

企業の声

【現在の景況感】

- 「世間一般的には不況であると思うが、業界としてはそれほど悪い状態ではない」（金属製品）
- 「内需型の企業は回復しておらず、厳しい状況に置かれている」（銑鉄鋳物）
- 「猛暑効果に期待したが、客単価が低く思うように伸びなかった」（百貨店）
- 「消費者の財布のひもは固く、購買意欲は低下している」（商店街）

【売上げ、採算】

- 「中国進出が軌道に乗れば、売上げが増加するのではないか」（一般機械）
- 「得意先の欧州メーカーとの取引拡大に伴い増加した」（輸送用機械）
- 「固定費を削減し、少しずつ利益が出るようになってきた」（電気機械）
- 「官公庁の仕事は以前から少なかったが、民間の仕事も低調になっている」（情報サービス）

【今後の見通し】

- 「改善努力の成果が出てきており、今後は更に良くなっていくと思う」（プラスチック製品）
- 「今後もまだ悪くなる。大手といえども悪くなるだろう」（印刷業）
- 「様々な業態で安売り競争が激化し、価格だけで差別化するのは困難である」（スーパー）
- 「他の業界と比較して好不況にズレがあり、先が見えない状態が続いている」（建設業）

1 製造業 『一部に厳しい状況がみられるものの、持ち直しの動きが続いている』

(1) 一般機械器具 『一部に厳しい状況がみられるものの、持ち直しの動きが続いている』

【業界の動向】県内の一般機械の鉱工業生産指数は、平成22年4月から5か月連続で前年同月を上回っており、直近の8月は前年同月を65.7%上回った。

【景況感】「最悪期は脱したが、回復のテンポは緩やかである」とや「品目により業績はまちまちであるが、業界全体としては再編へ動いている」との声が聞かれ、「不況である」とする企業が多かった。一方、「製品によっては、ほぼ最盛期ぐらいの規模まで戻っている」との声も聞かれ、一部に厳しい状況がみられるものの、持ち直しの動きが続いている。

【売上げ】「底を打った感はあるが、ピーク時よりも45%低下した状態が続いている」とする企業もあったが、「緩やかながらも増加基調にある」とや「既にリーマンショック以前の水準には回復しており、4～6月期比でも20%増加した」となどの声が聞かれ、「増えた」とする企業が多かった。

【品目別の状況】「医療・食料品関連は好調であるが、家電関連は低迷している」とや「半導体はほぼ最盛期ぐらいまで回復している」となどの声が聞かれた。

【受注単価】「半導体は価格交渉で毎回5%程度の値下げが常である」とや「見積もり合わせは全国の業者がライバルであり、20%程度低下している」との声が聞かれ、すべての企業が「下がった」としている。また、「仕事の激しい奪い合いで今後もどんどん下がるのではないかと」の声も聞かれた。

【原材料価格】「ほとんど変わらない」とする企業が多かったが、「鉄の価格が前年比で10%上昇し、コークスやスクラップ鉄も値上がりしている」とする企業もあった。

【採算性】「売上げが戻らないため採算性は好転しない」とする企業もあったが、「人件費などの経費を大幅に削減し、何とか黒字が出るようになった」となど、「良くなった」とする企業もあった。

【設備投資】「受注が戻らないことには本格的な設備投資は出来ない」との声も聞かれたが、「定期的な機械設備の更新をした」となど、設備投資を実施した企業が多かった。なお、今後についてはすべての企業で実施予定がない。

【今後の見通し】「今後本格化する中国進出が軌道に乗れば、売上げが増加するのではないかと」の明るい声も聞かれたが、「円高の影響により不透明さが増しており、先が全く読めない」となど、先行きを懸念する声が多かった。

(2) 輸送用機械器具 『持ち直しの動きが続いている』

【業界の動向】国内の四輪車生産台数は、平成21年11月以降10か月連続で前年同月を上回って推移しており、直近の平成22年8月は前年同月を20.8%上回った。

【景況感】「景気が回復しつつあるのか、売上げが順調に推移している」とや「新しい顧客との取引が開始できそうであり、今後仕事が増えて来るのではないかと大いに期待している」となどの声が多く聞かれ、持ち直しの動きが続いている。

【売上げ】「得意先の欧州メーカーとの取引拡大に伴い増加した」、「トラックは国内向けの仕事が増えている」とや「4～6月期との比較では変わらないが、1～8月の累計では前年より30%増加している」との話があり、「増えた」とする企業が多かった。

【受注単価】「4月に定例の引き下げ要請があったが、それ以降は変わっていない」との話があり、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。

【原材料価格】「ステンレスが15円/キロ、鉄が20円/キロ上がった」となどの話があり、「上がった」とする企業が多かった。今後についても、「ステンレスが値上がりする予定である」となどの話があり、多くの企業が「上がる」としている。

【採算性】「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。今後については、円高の影響やエコカー補助金終了による値下げ要請により、「悪くなる」とする企業が多かった。

【設備投資】「受注の増加に伴い、中古の自動測定器を購入した」となど、すべての企業が実施した。今後についても「内製化のための機械を購入する」となど、多くの企業が実施を予定している。

【今後の見通し】「急激な円高や補助金の終了に伴い、得意先から10月以降仕事が減ると言われている」とや「メーカー各社は、エコカー補助金の終了による需要の落ち込みを、輸出でカバーするつもりであったが、円高で計画変更を余儀なくされている」となど、多くの企業で「悪くなる」としている。

(3) 電気機械器具 『持ち直しの動きが続いている』

- 【業界の動向】県内の電気機械の鉱工業生産指数は、平成21年12月以降9か月連続で前年同月を上回って推移しており、直近の8月は前年同月を56.1%上回った。
- 【景況感】「円高の影響により、業況は下降気味である」や「最盛期と比較するとまだ半分程度の仕事の戻りである」などの声が聞かれ、「不況である」とする企業が多かった。一方、「半導体業界の業績は年初からの上昇傾向が続いている」との声も聞かれ、持ち直しの動きが続いている。
- 【売上げ】「新規受注が継続分の落ち込みをカバーし、何とか横ばいを保つことができた」など、「ほとんど変わらない」とする企業もあったが、「昨年の春を底として、その後は順調に回復している」や「中国などの海外需要が好調で仕事が戻ってきている」との声が聞かれ、「増えた」とする企業が多かった。
- 【受注単価】「高い技術力を評価されており、安定的に同単価で仕事が入ってくる」とする企業もあったが、「発注元が全国から見積もりを取っており、同業他社との単価減にしのぎを削っている」や「半導体関連は常に単価の削減が迫られている」など、「下がった」とする企業が多かった。
- 【原材料価格】「比較的安定している」や「原材料は無償支給のため価格変動の影響はない」など、すべての企業が「ほとんど変わらない」としている。
- 【採算性】「現状はほとんど変わらない」との声も聞かれたが、「固定費を削減し、少しずつ利益が出るようになってきた」や「売上げの増加に伴い、改善されてきた」など、「良くなった」とする企業が多かった。
- 【設備投資】「新しい仕事を取るために必要な機械設備を購入した」や「検査機器を購入した」など、実施した企業が多かった。今後についても、「新規事業を開始するためのインフラ設備を整備する」などの声が聞かれ、予定している企業が多かった。
- 【今後の見通し】「新規工場のライン稼働を受け、量産体制にシフトする」との明るい声も聞かれたが、「今年一杯は何とか仕事がありそうだが、その先は不透明である」と先行きを懸念する声が多かった。

(4) 金属製品 『持ち直しの動きが続いている』

- 【業界の動向】県内の金属製品の鉱工業生産指数は、平成22年2月以降7か月連続で前年同月を上回って推移しており、直近の平成22年8月は前年同月を4.4%上回った。
- 【景況感】「世間一般的には不況であると思うが、業界としてはそれほど悪い状態ではない」や「売上げが維持出来ている」などの声が多く聞かれ、持ち直しの動きが続いている。
- 【売上げ】「4～6月期比で5%程度減少した」とする企業もあったが、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。
- 【品目別の状況】「電気部品関連は全く仕事がない。現地調達が進んでおり、元には戻らない」との話もあったが、「エコ関連の仕事の話がきている。政府も成長戦略として位置付けているので、当社も力を入れていく」、「住宅関連は若干良くなってきた」や「半導体は好調であった」という企業が多かった。また、「今後、半導体は円高や在庫調整の影響で悪くなるだろう」や「自動車関連は円高や補助金の終了により陰りがみえてきた」など、今後を不安視する声も聞かれた。
- 【受注単価】「値下げ要請があり、5%程度下がった」とする企業もあったが、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。ただし、安い水準で推移しているケースが多く、「バブルの頃と比較すると半値程度である」との話も聞かれた。
- 【原材料価格】「亜鉛や銅は上昇傾向であり、特に亜鉛は大きく値上がりした」や「化成ソーダは円高の影響で下がった」などの話があり、原材料によりまちまちであった。
- 【採算性】「コンサルタントを導入したことにより、生産性が改善された」や「必要な物を必要なだけ購入するようにして無駄を省いている」などの話があり、「良くなっている」とする企業が多かった。
- 【設備投資】「手作業を自動化する機械を購入した」や「溶接工程を集約するため、ラインの移設を行った」など、実施した企業が多かった。今後については「先行きの不透明感から手控える」などの話があり、多くの企業で実施予定はなかった。
- 【今後の見通し】「以前は待っていれば仕事 came が来たが今は違う。先が見えない」など、先行きに不透明感を感じる企業があった。一方、「当分は今の状態が続く」との声も聞かれた。

(5) プラスチック製品『一部に厳しい状況がみられるものの、持ち直しの動きが続いている』

- 【業界の動向】県内のプラスチック製品の鉱工業生産指数は、平成22年1月から8か月連続で前年同月を上回って推移しており、直近の8月は前年同月を6.0%上回った。
- 【景況感】「当社は『好況』のレベルだが、業界は二極化が進んでおり、差別化できる製品がない企業はかなり厳しいと思う」や「業界の仕事量は増えておらず、むしろ減少気味と言えるが、技術力の高い当社は仕事が増えている」との声が多く聞かれ、一部に厳しい状況がみられるものの、持ち直しの動きが続いている。
- 【売上げ】すべての企業が「増えた」としている。「4～6月期比では20%近く伸びている」や「9月までの上半期は好調だった」などの声が多く聞かれた。今後についても、「今の好調が続く」や「今よりも増加する予定である」との声が多く聞かれた。
- 【品目別の状況】「医療関連は10%増加した」、「デジカメを始めとした電子部品の仕事が増えた」や「自動車関連は増加基調である」などの話があった。一方、「建設機械関連は低調である」との声も聞かれた。
- 【受注単価】すべての企業が「値下げ要請はあるが、ほとんど変わらない」としている。「定例の値下げ要請はあるが、予想できる範囲内なので対応可能である」や「今後さらに円高が進むと要請が強くなるかも知れない」との話もあった。
- 【原材料価格】すべての企業が「ほとんど変わらない」としている。「一部上がったものもあるが、全体では横ばいと言える」や「値上げの話は来ているがまだ上がっていない」との声が聞かれた。
- 【採算性】すべての企業が「良くなった」としている。「売上げの増加に伴って良くなった」、「工具の工夫により、生産効率が改善した」や「試作品など、収益性の高い仕事が増えた」との声が聞かれた。
- 【設備投資】「産業用ロボットを購入した」や「パソコンのソフトを入れ替えた」など、実施した企業が多かった。今後についても、「工場を増設する」や「作業環境の整備を行う」など、実施予定の企業が多かった。
- 【今後の見通し】「年度内は今の好調が続くと思う」や「改善努力の成果が出てきており、今後は更に良くなっていくと思う」などの明るい声が聞かれた。一方、「企業数に見合うだけの仕事量はないので、業界の二極化は続くと思う」との話もあった。

(6) 鉄鉄鋳物（川口）『厳しいながらも持ち直しの動きが続いている』

- 【業界の動向】鉄鉄鋳物(川口)の生産量は、直近の平成22年6月は5月と比べ25.6%増加しており、前年同月比では57.1%増加し、6か月連続で前年同月を上回っている。
- 【景況感】「内需型の企業は回復しておらず、厳しい状況に置かれている」との声が聞かれた。一方、「取り扱い品目によって二極化が進行しており、輸出品目を取り扱っている企業は回復している」との話もあり、厳しいながらも持ち直しの動きが続いている。
- 【売上げ】「7月、8月は堅調に推移し、9月は増加した。4～6月期比では10%程度伸びている」との話もあったが、「良くなかった前年よりも、さらに10%程度減少している」や「リーマンショック前の水準まで回復している企業が3割程度あるが、30%以上減少したままの企業も3割ある」など、様々な声が聞かれた。
- 【品目別の状況】「輸送用機械関連や産業機械関連は好調である」、「製缶関連は横ばいだが、建設機械は10%程度増えている」などの話があった。
- 【受注単価】「値下げ要請はきているが、まだ下がっていない」とする企業が多かった。今後については、「値下げ要請が更に強まる見込みである」との声が聞かれ、「下がる」とする企業が多かった。
- 【原材料価格】「鉄鉄の価格は変わっておらず、鉄スクラップもほぼ横ばいである」との声が聞かれ、すべての企業が「ほとんど変わらない」としている。
- 【採算性】「仕事量が増えた分だけ良くなっている」とする企業もあったが、「悪かった前年並であり厳しい」とする企業もあり様々だった。
- 【設備投資】「更新時期のため、大型プレス機を購入した」とする企業もあったが、実施しなかった企業が多かった。今後については、実施予定の企業はなかった。
- 【今後の見通し】「技術力や営業力によって、企業間格差が広がると思う」などの声が聞かれた。また、「円高による産業の空洞化を心配している」や「受注減により、今後資金繰りが悪化する企業が出てくる可能性が高い」など、先行きを懸念する声も聞かれた。

(7) 印刷業 『厳しい状況が続いている』

- 【業界の動向】県内の印刷業の鋳工業生産指数は、平成21年11月以降10か月連続で前年同月を上回って推移しており、直近の平成22年8月は前年同月を1.3%上回った。
- 【景況感】「印刷だけでは食べていけない」、「不況の真ただ中である」や「以前なら考えられないような同業他社が倒産した」など、すべての企業が「不況である」としており、厳しい状況が続いている。
- 【売上げ】「新規受注があり、5%増加した」との話もあったが、「受注量は増加しているが、単価が減少しているため、売上額が上がらない」などの話があり、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。しかし、前年同期比では軒並み減少しており、売上げの減少に歯止めが掛っていない。
- 【受注単価】「平均では20%下がった。中には50%下がったものもある」、「各社とも加工賃を圧縮して対応している」などの声が聞かれ、多くの企業が「下がった」としている。
- 【原材料価格】「紙・インキは変わらなかった」との声が多かった。「円高により輸出が不調なため、インキメーカーは今後国内価格を10%程度引き上げるのではないか」との話があった。
- 【採算性】「採算性の高い仕事を確保し、無駄な経費を削減して維持している」との声も聞かれたが、「仕事量の減少と単価の下落で悪くなった」などの話があり、「悪くなった」とする企業が多かった。
- 【設備投資】「新しい仕事に対応するための機械を購入した」という話もあったが、実施しなかった企業が多かった。今後についても、実施しないという企業が多かった。
- 【今後の見通し】「今後もまだ悪くなる。大手といえども悪くなるだろう」や「得意先の短期納期、値引きといった要請にどこまで耐えられるか体力勝負である」など、先行きを懸念する声が多かった。

2 小売業 『一部に持ち直しの動きがみられるものの、弱い動きが続いている』

(1) 百貨店 『持ち直しの動きに陰りがみられる』

- 【業界の動向】商業販売統計によると県内百貨店の販売額は、平成20年3月から30か月連続で前年同月を下回っており、直近の平成22年8月は、既存店ベース、全店ベースともに前年同月を2.6%下回った。
- 【景況感】「猛暑効果に期待したが、客単価が低く思うように伸びなかった」や「9月の落ち込みが大きく、先が見えなくなった」などの声が聞かれ、持ち直しの動きに陰りがみられる。
- 【売上げ】「セールにより夏物の消化は進んだが、客単価は下がっており、売上げ増加につながらない」や「猛暑が長引き秋物は散々である」などの声が聞かれ、売上げは減少している店舗が多かった。
- 品目別については、衣料品、服飾雑貨は「日傘やUV対応手袋、帽子、水着、メンズのショートパンツなどが好調だった」や「肌につかない婦人ブラウスがよく出たが、Tシャツは駄目だった」との声が聞かれた。
- 食料品については、「スイカ、桃などの果物のほか、米飯や惣菜がよく売れた」や「土用の丑の日のうなぎは過去最高の売上げだった」など猛暑効果がみられた。一方、「暑過ぎて嫌われたのかスイーツが売れなかった」との声も聞かれた。
- その他商品では、化粧品は「UV対応品を中心に、前年を超える売上げだった」とする店舗が多かった。時計・宝飾品については「高額品は売れず、単価が下がっている」とする店舗が多い中で、「高所得者層の消費マインドが戻っているのか、時計や宝飾品がよく出るようになった」とする店舗もあった。
- お中元はすべての店舗が「客数、単価ともに減少した」としており、対前年比90%~95%であった。「中元、歳暮はデパートの包装紙で贈るという時代ではなくなった。スーパーに流れているのではないか」と話す店舗もあった。
- 【採算性】すべての店舗が「改善している」としており、「下げ止まったままの売上げに対応して、経費を縮減している」との声が聞かれた。
- 【今後の見通し】「回復の兆しが見えたと思ったが、株安、円高の影響で消費に陰りが見える」や「昨年より状態は良いが、消費の動向が更に見えにくくなっている」など不透明感が増したとする店舗が多かった。

(2) スーパー 『弱い動きが続いている』

【業界の動向】商業販売統計によると県内スーパーの販売額は、既存店ベースでは直近の8月は0.9%の減少となり、21か月連続で前年同月を下回った。全店ベースでは6月に19か月ぶりに前年同月を上回り、直近の8月は3.8%の増加となり、3か月連続で前年同月を上回った。

【景況感】「社会全般的に景気が好転しないと、小売業の景況感は改善しない」や「消費者は多様化しており、顧客の嗜好を予測するのは困難である」などの声が聞かれ、弱い動きが続いている。

【売上げ】「競合店が出店してから1年が経過したが、顧客が戻り、売上げも増加しつつある」との声も聞かれたが、「来店客数は何とか確保できたが、単価が下がり、売上げはほとんど変わらなかった」などの声が多く聞かれた。

品目別については、食料品は「猛暑の影響で、スポーツドリンクやアイス類が飛ぶように売れた」などの声が聞かれた。

衣料品は、「夏の間は肌着、Tシャツ、半ズボンなどは比較的出ていたが、その分秋物は婦人・紳士・子供に関わらずあまり良くなかった」などの話が聞かれた。

日用雑貨品は「猛暑の影響で、洗剤や洗濯機の洗浄剤などがかなり売れた」や「セール品はある程度売れたが、トータルでは赤字であった」などの話があった。

【採算性】「人件費や光熱費の削減を徹底したため良くなった」とする企業もあったが、「来店客数は若干増加しているが、単価は低下している」や「売上高の増加分を電気代などの経費増で相殺されトントンである」など、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。

【設備投資】「炊飯器など必要な器具を購入した」とする店舗もあったが、実施しなかった店舗の方が多かった。今後についても、小規模の設備投資を行う予定の店舗もあったが、実施予定のない店舗の方が多かった。

【今後の見通し】「電子マネーを利用した販売戦略が引き続き好調である」などの明るい話が聞かれた。一方、「冬物衣料が売れないことには厳しい状況が続く」や「様々な業態で安売り競争が激化し、価格だけで差別化するのは困難である」などの声も聞かれた。

(3) 商店街 『厳しい状況が続いている』

【業界の動向】平成22年10月の内閣府の月例経済報告は、個人消費について、「持ち直している」と総括している。

【景況感】「物販は冷え込んでおり、悲惨な状況に近い」、「消費者の財布のひもは固く、購買意欲は低下している」や「テナント料の支払いなどで資金繰りが厳しいために魅力的な商品の仕入れや店舗の改装が出来ず、売上げが増えない」など、すべての商店街が「不況である」としており、厳しい状況が続いている。

【来街者】すべての商店街が「減った」としている。「毎年、夏場は来街者数が減るが、この夏は猛暑の影響で、人が外を出歩かなかった」や「暑さの影響だろうが、特に高齢者の姿が少ない気がした」などの声が聞かれた。

【個店の状況】「居酒屋は好調であり、そば屋も好調である」や「ファーストフード店は比較的好調である」との話があった。一方、「子供服の店は店舗規模を縮小した」、「靴屋は売上げが30%も減少した」や「核店舗であるスーパーも売上げが5%減少した」などの話があった。

【商店街としての取組】「9月から旅行会社とタイアップして、ツアー客を取り込み始めた。今年の冬にも実施した企画だが、今回は前回以上の来街者数を見込んでいる」、「小学生の絵を街路灯に飾る企画を実施している」や「申請していた国の補助金が採択されたので、街路灯整備に取りかかる」などの話があった。

また、「2%割引のプレミアム商品券は相変わらず好調である。5%、10%のプレミアムをつければ話題性が増すが、行政の補助がないと難しい」との話もあった。

【今後の課題等】「個人の物販店は店売りだけでは限界にきている。インターネット販売に本格的に取り組む必要があると思う」、「朝早くから店を開けるなど、商店街として客の利便性を高める必要がある」などの話があった。

【今後の見通し】「夏場よりは良くなるだろうが、前年比では横ばいだと思う」や「製造業の業績が落ち込むと消費にも影響が出るので、円高の影響を心配している」などの話があった。

3 情報サービス業 『悪化が続いている』

- 【業界の動向】経済産業省の特定サービス産業動態統計調査によると、情報サービス業の売上高は、平成21年6月以降14か月連続で前年同月を下回って推移していたが、直近の8月に15か月ぶりに前年同月を1.2%上回った。
- 【景況感】「受注の戻りは鈍く、業界全体のパイが縮小している感じがある」や「官公庁の仕事は以前から少なかったが、民間の仕事も低調になっている」など、すべての企業が「不況である」としており、悪化が続いている。
- 【売上げ】「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。「4、5月と比べると6、7月は良かったが、8月以降はまた減ってしまった」、「発注先はどこも様子見のところが多く、しかも発注内容が以前よりも厳しくなっている」や「入力などの小さな仕事は増えてきたが、大規模な受注はなかなか取れなくなっている」などの声が聞かれた。また、「オンラインで本人に手入力させる企業が増加しており、入力関連の仕事は年々減少している」との話もあった。
- 【受注単価】「人件費が計上できないなど、採算を度外視した仕事はしないことにしている」との声が聞かれ、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。また、「入力や派遣業務は入札が多く、単価は低下傾向である。入力業務は中国の現地企業へ外注している」との話もあった。
- 【採算性】「売上げは減少したが、それ以上の経費削減により利益は増加している」や「売上げが若干増加し、何とか利益が出るようになった」など、「良くなった」とする企業が多かった。
- 【設備投資】「リースで入力機器を導入した」とする企業もあったが、実施しなかった企業が多かった。今後についても、実施予定がない企業が多い。
- 【今後の見通し】「経済政策次第ではさらなる低迷が続くかもしれない」や「現状は何とかなるが、数か月先は全く読めない」など、先行きに不安を感じている企業が多かった。

4 建設業 『悪化が続き、厳しい状況となっている』

- 【業界の動向】県内の新設住宅着工戸数は、平成22年6月以降3か月連続で前年同月を上回って推移しており、直近の8月は前年同月を7.0%上回った。
- 【景況感】「以前は悪いなりに受注できたが、今はできない。過去に例のない不況だ」、「仕事が減っているため、このままでは下請けだけでなく元請け企業も倒産する」など、すべての企業が「不況である」と感じており、悪化が続き、厳しい状況となっている。
- 【受注高】「受注が少なかった4～6月期と比べると50%増加している」とする企業もあったが、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。また、前年比はすべての企業が「減った」としている。
- 公共工事については、「発注が減少しているため競争が激化し、入札しても仕事が取れない」、「受注が多かった耐震補強工事の仕事も一段落し、今では公共工事自体がない」や「5～6年前がピークであり、以降受注量は減少し続けている」との話があった。
- 民間工事については、「県内のマンション建設は、大宮以北では全くない」や「工場や店舗の建設といった設備投資に関する案件がない」などの話があった。
- 【受注価格】「4～6月期比はほとんど変わらない」とする企業が多かった。前年比は「15～20%下がった」とする企業が多く、「入札では、どう考えても販売管理費を入れていない単価であり、話にならない」、「値下げ競争に歯止めがかからない」や「マンション建設では、デベロッパーがゼネコンの単価を絞り、ゼネコンが下請けの単価を絞るという悪循環が続いている」といった話があった。
- 【資材価格】「材木は底値で変わらなかった」、「生コンは変わらなかった」や「鉄筋はトン当たり2万円下がった」など、材料によって様々だった。また、「材木・生コンは今後も変わらないが、鉄筋に関しては今後1トン当たり5千円程度値上がりする」との話があった。
- 【採算性】「ここ2～3年の間で、急激に悪くなった」や「売上げの減少に伴い悪くなった」など、すべての企業が「悪くなった」としている。
- 【設備投資】すべての企業が実施しておらず、今後についても実施予定はない。
- 【今後の見通し】「明るい材料が全くない」や「この業界は他の業界と比較して、好不況にズレがあるが、先が見えない状態が続いている」など、すべての企業が「悪い方向に向かう」や「このままの悪い状態が続く」と考えている。